

「教育実習を終えて」

[私立 T 中学校・高等学校 地理歴史] 氏名：A.H

この教育実習で学んだことは、一生忘れないと思います。毎日が、驚きと発見でいっぱい、体力的にはハードで、とても充実した 3 週間でした。今まででこんなに勉強したことがない程、日本史を勉強しましたが、どれだけ勉強しても、自身の知識不足を痛感し、高校生 3 年生の大切なこの時期のこの時間を持たせてもらうのが、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。それでも、根気強くご指導して下さい担当の M 先生はじめ、温かく見守ってくださった先生方、たくさんの事を経験させて下さり指導して下さいました。そして、生徒達もわかりづらいうろたえ話を真剣に聞いてくれました。感謝してもしきれないです。教育実習に行って、自分の母校がさらに好きになりました。

【教科指導について】

教育実習のはじめの頃は、沢山の授業見学をする機会を頂きました。授業を見学する中で、同じ高校の社会科でも、コースやそれぞれの先生によって授業の進め方が全然違いました。同学年に対し、同じ先生が授業されるときでも、コースごとにそれぞれ特色のある学校なので、コースによって、内容、クローズアップする部分、深度など、それぞれに適する様に授業をしてらっしゃって、勉強になることばかりでした。

教科によっても、授業の進み方、声のかけ方が違い、また同じコースでもクラスによって、生徒達の雰囲気が全然違っていて、教科指導の面白さを感じました。

さらに、中学生か高校生かでも注目させるポイントや授業の仕方に違いがあり、中学生は、日付やページ数など細かなところを丁寧に説明しており、基本に忠実に行う印象でしたが、高校では受験に照準を合わせたり、発展的な事例を入れることで興味を維持するなど、それぞれに目的と違いを感じました。また授業中の声かけに対する反応や授業中の様子も中学と高校では全然違っていて、生徒の時には気づかなかつた発見が多かったです。

そして、実際に自分が教科指導をする中で学ぶ事も沢山ありました。教育実習が始まって 4 日目、初めて授業をさせて頂きました。自分なりに勉強して、まとめて、しっかり練習もしたつもりでしたが、すごく緊張してしまって、思うようにいかず焦りました。授業をする中で、自分が思っている程、生徒たちには伝わっていないことを実感しました。そんな状態で、進度を気にして、早口になり授業のスピードを上げてしまったため、生徒達は全く理解が追いつかない様子でした。生徒目線に立って、もっと分かりやすい授業を行えるようになりたいと強く思ったことを覚えています。

また、ある授業で根本的な理解のミスで、史実と違う事を教えてしまった事がありました。生徒にとっては、私がする授業で一生の知識を覚えるのに、間違いを教えてしまったと後でわかりうろたえました。あとで M 先生に訂正して頂いたのですが、教材研究を徹底的に行うからこそ授業の中で堂々と振る舞えるのだろうと、改めて教材研究の重要性を学びました。

そして、教材研究を行う中で、日本史の奥深さを感じることも数多くありました。今まで、歴史上の出来事を一面的にしか見ていなかったことに気づくことが多く、様々な側面から歴史を考えとらえた上で、生徒達に伝えることの重要性を感じました。

研究授業の講評の際、「点で教えすぎていて、流れがない。受験で必要なポイントを重点的に教えたいのはわかるけど、日本史として、何を教えたいのかを考えて、受験用だけじゃない教養としての理屈を理解させてあげないといけないよ」とご指導いただきました。はっとしました。

ご指導いただいている M 先生の授業では、重要なポイントに関して、フレーズや寸劇ですごく印象的に行われるので、授業のあとも印象としてしっかり残ります。さらに、それ以外の内容の中にも大きな流れがあって、豊富な知識の中で、過去との相違点や、なぜこういう事が起きたのかという理屈もわかりやすく生徒達に教えています。いつも先生方が授業の中で行っていることの、すごさを感じる事が本当に多かったです。

生徒達にとって、なぜこういう出来事がこの時期に発生したのか、そういった、「理屈」をきっちりと理解させてあげる大切さを改めて感じました。

私の授業だと、日本史が暗記のようになってしまいうるなと思います。いい授業をするためには、まず、教師自身が豊富な知識を身に着け、多角的に理解しながら、流れをつかむこと、そして生徒達に合わせ流れと共に理屈を理解させることが大切だということを学びました。

毎日 3 時、4 時まで授業研究しましたが、私自身が精一杯理解しながら、授業を進めるようでは、生徒達には全く伝わらないことを痛感しました。M 先生の授業の様に、生徒達に、「なるほど面白い！」と思ってもらえる授業に少しでも近づけるように、頑張りたいと思いました。

【生徒指導について】

HR の担任をさせて頂いていた 3-5 の生徒達は、それぞれの個性が面白く、穏やかで温かいクラスでした。このクラスの HR 担任をさせて頂けて本当に嬉しかったです。

しかし、はじめから今のようなクラスだったのではなく、それぞれの生徒が沢山の出来事を乗り越え成長して、この温かいクラスがあることを、教えて頂いて知りました。

このクラスに入って、元気になって巣立って行こうとしている 3-5 の生徒たちを見ていると、教師という職業の大切さ、尊さを感じます。

生徒達にとって、このクラスでのびのびと経験した思い出は一生の宝になるだろうと感じ、日本の未来を担うであろう生徒達に、そういう経験をさせてあげられる職業って本当にやりがいがあって、素敵だなあと思いました。M 先生がよく、教科指導は一部だと言ってらっしゃったのですが、本当にそうだと思います。

偶然にも、進路を決める、お忙しい時期に受け入れて頂き、M 先生の激務の日々や、進路が決まる様子を間近で見させていただけました。本当に休む暇もなく生徒達と面談や授業の日々で、先生という職業の大変さややりがい、面白みを感じるとともに、勉強になる楽しい経験を沢山させて頂き、心から感謝しています。